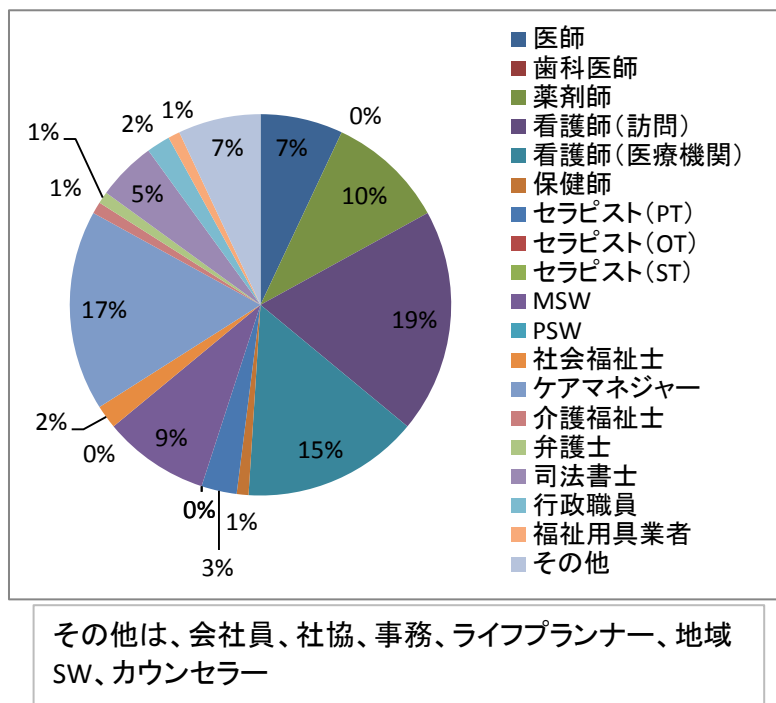


平成29年度第1回福岡東在宅ケアネットワーク・東区医師会・東区保健福祉センター共催
多職種連携研修会 アンケート結果

日 時 平成29年6月17日(土) 13時30分～15時30分
場 所 東区保健福祉センター 1階 講堂
出席者 136名
アンケート回答者 100名

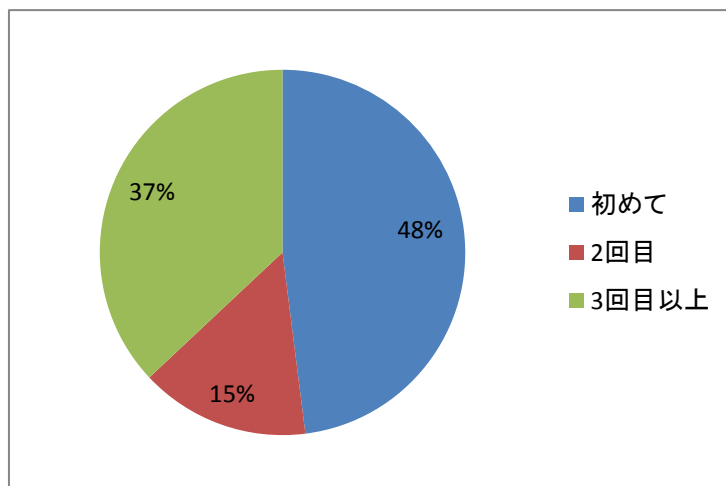
1. あなたの職種を教えてください。

医師	7
歯科医師	0
薬剤師	10
看護師(訪問)	19
看護師(医療機関)	15
保健師	1
セラピスト(PT)	3
セラピスト(OT)	0
セラピスト(ST)	0
MSW	9
PSW	0
社会福祉士	2
ケアマネジャー	17
介護福祉士	1
弁護士	1
司法書士	5
行政職員	2
福祉用具業者	1
その他	7



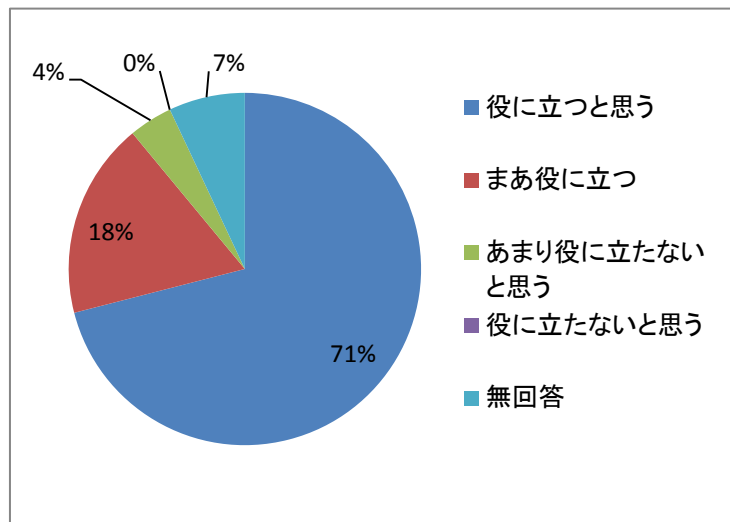
2. 当ネットワークが主催する症例検討会への参加は、何回目ですか？

初めて	48
2回目	15
3回目以上	37



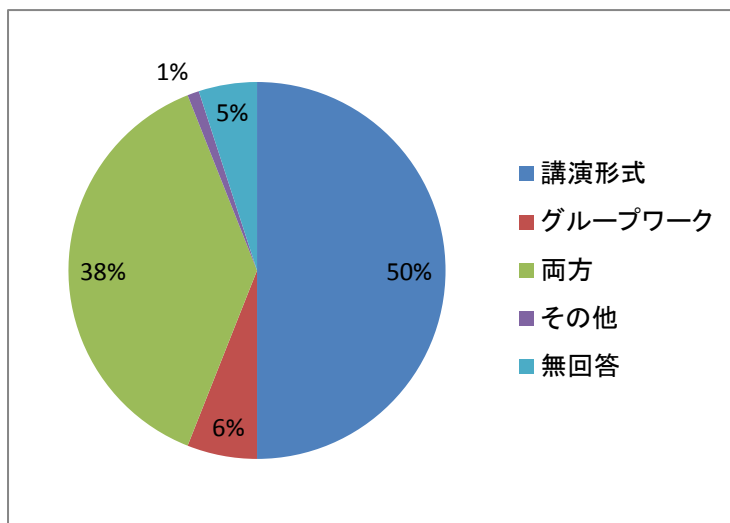
3. 今回の事例は、今後の業務に役立ちそうですか？

役に立つと思う	71
まあ役に立つ	18
あまり役に立たないと思う	4
役に立たないと思う	0
無回答	7



4. 研修会の形態についてご希望を回答下さい。

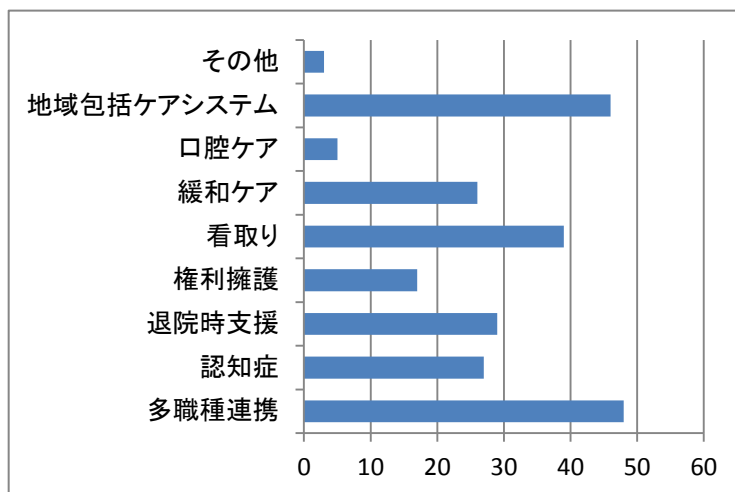
講演形式	50
グループワーク	6
両方	38
その他	1
無回答	5



5. 今後、取り上げて欲しいテーマについてご回答下さい。(複数選択可)

多職種連携	48
認知症	27
退院時支援	29
権利擁護	17
看取り	39
緩和ケア	26
口腔ケア	5
地域包括ケアシステム	46
その他	3

・障がい
・地域リハ
・低所得者の支援



6. 感想等を自由にご記入ください。(開催病院の印象など)

1	今回のお話で自分がどう生きたかったのか改めて実感した答えが導けた
2	東区の医療ネットワークの話をきいたばかりでしたので、わかりやすかったです。自分の病院から東区の病院へと考えることからやっていたと思う。
3	テーマが大きくとても興味深くて面白かった。知らないオランダの制度を教えてもらえて楽しかった。しかし実務に沿ったものではなくすぐに役立つものではなかった。終了時間がとても遅れたのが残念です。仕事に戻るので、終了時間はきちんとしてほしい。
4	広い視点を持てて自分の現場内の問題を広く他方面の考え方をもつヒントになるので、このような外からの講師を取り入れていくのは有効と思った。
5	オランダのような成熟市民社会を目指すとなれば、まずは教育レベルを統一する必要があると感じた。話し合いや目指すことに対する理解や意見が得られないと思うことが多いため。研修時間はきちんと守って頂きたい。予定時間で収まらない場合は、時間配分を考えてほしい。
6	非常に勉強になりました
7	定型的な視点から患者の意思を重視し地域やボランティアを通じて生活できる対策を知りました。病院から地域へ在宅への看取りができる方法、チームで見守りができる環境も今後の取り組みだと感じました。
8	専門職としての自立をあらためて考えてみようと思いました
9	最後を自分らしくおだやかに過ごすための選択を自己決定するが、それが最後意にそぐわなくなる事があれば、又考えなければならないと思う。そのために専門職があるかと。
10	50年程度で成熟してきたオランダと高齢化対策として16年経過した介護保険制度で構築してきた日本。私自身介護現場で30数年、仕事をして来ましたが今からの日本・地域包括ケアシステムの構築は重要でしょうが「介護人材確保」の面からの悲観的な思いしか沸いてきません。不安です。

11	オランダと日本が違いすぎて仕事していく中で今から教育や高齢者自立を・・・と言っても今まで生きてきて変えていくのは困難。経済的に余裕がないため、ボランティアをという考えができません。でも先生の話聞いて日本もこんな世の中になったらいいと思います。
12	大変得るものがありました。ありがとうございました。
13	他職種の方の意見が聞けてよかったです。どうもありがとうございました。
14	オランダ社会の状況を聞かせて頂き、日本の教育や意識の持ち方の違いを改めて感じた。自分を知って他人にも助けを求めることが出来るようになりたいと思いました。
15	日本はまだまだ福祉・介護がすすんでいないことを痛感しました。教育の大切なこともわかりましたが、実際に現場では本人のためにということにかけはなれたりすることが多々あり悩むところです
16	WLBの話や自己選択など、自分の人生を再度考え見つめなおすよい機会となりました。日本が10年20年先、心が豊かに笑顔で過ごせるために、私達世代が出来ることすべきことを一つ一つ取り組んでいければと思います。
17	意思決定する上での選択肢があるということ、決定後その責任は自分にあるということ、その教育のあり方など自分の人生を考える意味でもとても勉強になりました
18	職業倫理感に関する研修会、人として社会の一員として、医療福祉に関わる仕事をするものとしての個人としての考え方のもととなる研修会を又受けたいです。とても勉強になりました。
19	自己決定ということについて考えさせられました。教育現場から自分が何を選び決定し実行することが大切ですね。それが今最も難しくなっているのが現代だと思います。
20	コーディネーター役を担われた伊藤先生のリード力に感心しました。講座の内容は自分の視野を広げる機会になったと思います。質疑応答では医師やケアマネの方々の質疑応答や意見に大変刺激をうけました。今後も機会があれば、是非とも参加したいと思いました。
21	オランダの国の考え方を日本も見習っていけるといいと思った。自分が出来ることをみつけて、さっそく行動におこそうと思いアクションプランを考えていきたい
22	オランダの安楽死について知ることができて良かったです。日本では現在安楽死は認められていませんが、出来るだけ苦痛なく最期を迎える様なサポートが出来ればと思います
23	終末期(人生の最後の段階)での死の議論ではなく、もっと前倒しの時期からおそらく死にまつわる教育がオランダでは自己決定という立場からよりプロアクティブにされているのではないかと想像します。そして今回のように海外の状況を教えて頂けると幸いです。
24	オランダと日本の制度の違いを知ることができた。オランダの良いところを日本が取り入れることができると良いと思う。事例報告の資料があればよかった。
25	オランダの福祉に関する社会がすごくよくわかりました。ワークシェアリングが進んでいて良い社会だなと感じました。このような社会が幸福に繋がっていくと思います。ただ日本社会でワークシェアリングをいれようと、つぶれてしまうと思います。政治家から国民まで拝金主義になってしまっているのが難しいのではと。日本社会では社会貢献のボランティア意識がある方はごく一部の人に限られているので。日本社会でボランティアの充実を図っていくときは、強制的ボランティアでは成功すると思います。強制的になることで皆が参画しボランティアが充実できると思います。日本の場合一番の問題はお金(財政)がない事といってましたが、その通りだと思います。近々になって安倍首相も地域の力とかボランティアとかいってますがまあ無理なのではないかと思っています。オランダのように昔から福祉や生き方について議論されていればよかったのかなと思いました。
26	今日、海外(ヨーロッパ)のことが少しでも理解できてありがたかったです。日本でも意思決定がしっかりできるように個人ができればと思います
27	直接業務に役立つとは・・・？ですがケアマネとして自己決定を支える事ができる支援をすることと同じだと思いました。皆で支えあい(お金も含め)安心して生活できる日本までまだ時間がかかりそうですが、今出来ることを頑張っていけたらと思いました。

28	今まで自分が考えていましたボランティア(参加型福祉についても)の必要性を講演を受け少し理解できた。一人でも自分らしく生きることが大切だと思いました。
29	本日の講演は考えさせられる講演でした。職場のカンファレンスなど振り返ると庇護的・官僚主義的なカンファレンスになっていますので自立的専門集団的な場をもうける必要があると考え直すことができました。又自分の意見をはっきりと言うことの大切さを改めて思うことができました。オランダのような日本になるよう今後につなげていきたいです
30	大変参考になりました。ありがとうございました。
31	興味深いテーマでとても面白かったです。具体的に何が自分で解決等をみつけることはできませんが現状をよく考え、先に進んでいきたいと考えました
32	座りたい席に座るために早く来て座っていますので「前のほうに」と移動させないでください。目の関係で後ろの席がいいのです。冷房があたらないところ等。高齢者はリスクも含めて自己決定されてる人が多いと思います。「デイに行かない」「施設に行かない」「ヘルパーはいらん、自分でする！」
33	成熟市民社会には教育が重要であるとお話で、日本がオランダのような社会に近づくためには増税等、様々な課題があつて道のりが長いと思われますが「浮揚面」という言葉も聞かれましたが、各々の立場の人が意見を出して議論することがまずはできることかなと思いました。自立するための教育を低学年から行っているというお話も印象に残りました。
34	オランダでの話はとても素晴らしくて理想系でありました。しかしこのレベルを日本にというのは難しい。ここにいる人々は出来るだろうが、今の80～90代の人はそのような考えはもっていない。そして財源。日本で在宅死したければ、お金が充分なればできない。又若者20代の年金は納めている人が40%台。将来彼らが受ける年金はどうなるのか？(ここにいる人は支払うようにすすめてほしい)学校で豊かな考え方を教えるには日本の教師は仕事が多すぎるし、国は教育費を減らそうとしている。小学校のクラスの人数を減らし、先生の数を増やさないと十分な教育はできない。親と子でも相手を1人の人間として、個人として尊敬していないことが多いので関係性が自立していないケースが多いと思う。
35	オランダでの自立。幼少期から自立・選択(自由意志での)を行うことの重要性を感じることができました。日本ではすぐにはむずかしいが、自己責任の中で自由意志で選択決定できるようになれば、現場で感じるジレンマも少しは減るもしくは問題が明確になり対処しやすくなるのではないかと感じました。
36	自己決定なかなか自分はできていないと思いました。自立的選択はやっていけないといけなけれど、なかなかやれない状況、環境、自分の思いだったり難しい状態にあるんじゃないかと思います。少しずつ、利用者さんはじめ自分も自立的選択を行えるように、本人の意思を尊重できるように関わっていききたいと思います。
37	パラダイムシフト、日本の方法を考えたいと思います
38	大きなテーマの中で今、自分達が自分が何をしたいこうかと考える機会となりました
39	リヒテルズさんのインクルージョンの自立支援の考え方には共鳴できました。地域包括ケアシステムなどを考える上で自助・共助・互助・公助の中で自助教育の(先生がおっしゃった出来ないことを伝えることができる)必要性を地域福祉活動の中で実践し、啓発していくことが必要だと思っていますが教育(小・中・高)の変革をまっしては間に合わないと思います。成年の自助に対する意識改革ができる手立てを考えたいと思いますし、何かそこに具体的な示唆があったらありがたいと思います。ありがとうございました。
40	オランダの社会状況を大変興味深く教えていただきました。色々な問題はあってもヨーロッパ型(北欧やオランダなどの)社会を目指せる日本であればいいと思います。今はアメリカ型の格差社会に向かっているのではと危惧しています
41	オランダの成熟市民社会から学んだこと。福祉を充実させるために教育が重要になること。画一的な大衆から多様な価値観を持つような教育を目指していく。意識の改革、教育が希望となっていく。
42	リアルで新鮮なテーマでした。信頼できる情報、オランダと日本の「今」「社会の状況」を確認できました。先生の著作等拝読したいと思います。又機会があればと望みます。ありがとうございました。

43	オランダの状況から見た日本の現況と言うことで、問題点が明瞭に感じられました。今後の成年後見の業務にいかしていきたいと思います
44	自立とは自分のやれることと、やれないことを知ることという話はとても感銘をうけました。やれないことについて助けを求められるために、社会的なサービスの選択肢、決して家族に押し付けるものではないという規制を含めたコンセンサス作りが必要と感じました。自分を知り、他人を知り自分の考えを発信する教育・個人としてその人が重んじられる社会を作りたいと思いました。
45	オランダの福祉や医療について(特に安楽死の現状について)話を聞くことができてよかったです。あらためて自己決定が重要と認識させられました。
46	まず非常に示唆に富む話を聞かせていただきありがとうございました。国全体がパラダイムシフトしなくてはならないことは、国民も国もなんとなくわかっているものの(そしてそれが精神的な豊かさであったり、自立的な選択ができる社会であることはわかっているものの)そのプロセスが描けていないことが、より大きな課題だと思います。自立的選択ができる社会を、自立的選択の素地がない社会で、国からの押し着せ以外の方法で、どう表現していくのか難しい課題だと思います。わが国全体が自立的集団になるのは難しいので、まずは医療介護専門職の集団から自立的集団になっていかなくてはならないのだと思います。自分の立場から「問題の指摘」ができない態度、いばる医者、モノが言えない介護職、うまく回らないのでとりあえずルールとお金をリリースする行政、そして現場はついてこないという悪循環をどう断ち切って、前向きな専門集団にしていくか考えていきたいと思います。
47	それぞれの立場からの講演をききながらグループワークを行っていくなどしていくとよいのでは。又交流会を行うことで顔がわかり多職種連携がより現実味をおびてくると思います
48	根本は1人1人が主人公であり、違いを認めあえる社会であれば、よりよい未来が開けてくるんだと感じました。